

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

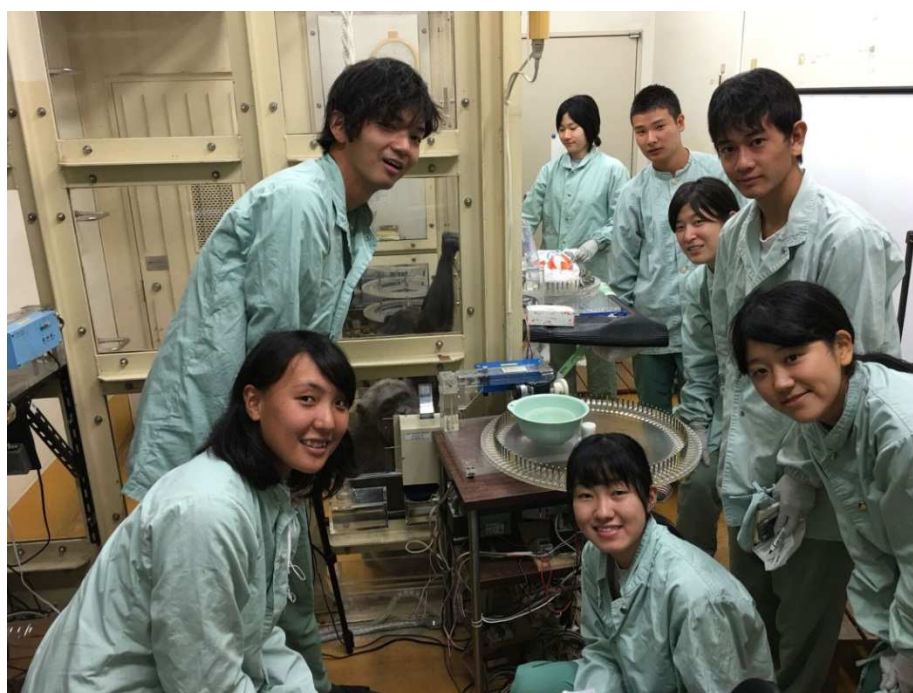
平成 26 年 8 月 11 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	川口ゆり

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、霊長類研究所
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
比較認知科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 9 月 16 日
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
霊長類研究所、思考言語分野
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>私の専門は比較認知科学である。比較認知科学はヒト以外の動物の認知について研究を行うことでヒトとは何かを知ろうとする学問である。霊長類研究所に来てからの半年、実習や出張で犬山にいない日を除き毎日、第 4 実験室でチンパンジーを対象に実験を行っている。また、チンパンジーの実験だけでなく、馬の実験を行うこともある。ここではその二種を対象にした研究についてその様子を報告する。</p> <p>チンパンジー実験</p> <p>チンパンジーの実験は報酬となるリンゴを用意して並べ、プログラムを立ち上げて走らせるところから始まる。準備ができると、チンパンジーを呼びに行く。私は、学部 1 回生の時にポケゼミ生としてすでに実験を見学していたが、このチンパンジーを呼びに行くところが霊長類研究所の院生となって変わった最も大きな部分である。チンパンジーを無理やり連れてくることはできないため、根気強く名前を呼び続ける。実験参加個体が呼びかけに応じてやってくると、電動扉を操作して、実験室まで来てもらう。これだけといえればこれだけだが、この時点でその日実験できるかどうかが決まる。また、電動扉の操作も万が一間違いがあると事故につながりかねないため、注意を要する。チンパンジーが実験を始めてからも、途中で集中力をなくす個体もいるため油断できない。実験が終わるとチンパンジーをホームケージに戻し、実験室を掃除する。これを一日 4 回繰り返す。このような実験の、研究において最も本質的な部分はどのような問いを立て、どのようなフレームワークを採用し、どのような結果がでるかということでありそこが腕のみせどころだが実際の毎日の実験はもっと体を動かす部分が多くを占め、それがなければ実験は成り立たない。また、気分よくチンパンジーに実験室まで来てもらい課題を遂行してもらうには技術を要する。私はまだまだ 1 人では実験を行えない。技能補佐員の市野悦子さんをはじめとするスタッフの協力なしには行えない。今後、研究内容自体に頭を悩ませるだけでなく実際に実験を行う際の技術を習得することが非常に重要なのだと感じる半年である。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



課題を行うチンパンジー（アイ）



比較認知科学実習（撮影：友永雅己教授）

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

馬実験

比較認知科学の対象にするのはチンパンジーなどの霊長類に限らない。思考言語分野ではホースマン各務ヶ原にて馬でも実験を行っている。馬は家畜動物として人と長い歴史を歩んできたにもかかわらず、その認知はほとんど調べられていない。視野が 350 度もあるといわれる彼らは世界をどう見ているのか。繊細と形容されることの多いこの動物は何を感じているのか。比較認知科学の手法は一般化されているため、例えば、チンパンジーで行っている実験をモニターのサイズを変えればそのまま馬にも応用できる。実際、数の大小を問う課題のプログラムはチンパンジーと馬で同じものを用いている。5 年後、10 年後には馬の認知についてより多くのことが明らかになっているだろう。



乗馬体験（撮影：友永雅己教授）

6. その他（特記事項など）

日頃、比較認知科学を行うにあたってご指導いただいている先生方やサポートしていただいているスタッフの方なしに実験は成り立ちませんでした。ありがとうございます。そして研究生生活を支えて頂いている PWS プログラムに厚くお礼申し上げます。